

## 縣神社 献茶祭概要

縣神社社務所

例年 11 月 5 日午後 10 時 30 分に齋行される。御奉仕は藪内流家元・藪内紹智師である。5 月に収穫された新茶は 11 月頃に熟成して味に深みを増すが、この時期に合わせて茶を神前に供え、茶の収穫の感謝と加護を祈る。

当社の献茶祭は家元の御献茶に茶壺「口切り式」が附置されている。これは「口切り茶事」（口切から客に茶を呈する迄）の一連の所作の型を神前で披露するものである。

「口切り」とは、収穫時に茶壺に封入された新茶の熟成を待って、初めて茶壺の封を切り、茶を取り出すことを言う。取り出した茶は家元（亭主）に供され、亭主はその茶を客に呈する。これが「口切り茶事」で茶家では 11 月の二番目の亥の日、炉開き当日に行われ、茶事の中でも最も厳格な行事とされている。

宇治では古来「薬師」に伝えられた口切り式法があり、家元などの口切り茶事にその役割を果たした。この古来の茶師による式法が幸いに幾多の経緯を経て藪内流家元に純粋な形で保存されていた。それを家元の御厚志により指導を受け、当社献茶祭に附置されることになった（昭和 42 年）。いわば現代の宇治の茶師が献茶祭の中で口切りを披露することによって江戸期依頼の茶師の作法が蘇った訳であり、今となっては宇治茶の持つ文化として、この式法護持も献茶祭の必要な意義の一つになっている。

なお、献茶祭使用の御茶は宇治茶商工業協会宇治支部の奉獻に依る。

神社では多くの人々の信仰心と善意と努力、茶の文化への思い入れなどに支えられた、この献茶祭を大切に、感謝と共に維持し続けたいと念願している。

献茶祭当日は家元による服席が茶室「棠庵」等で催され、神前から撤下された極上の濃茶・薄茶が振る舞われる。神社ゆかりの献立による点心席もある。一般参拝者も当日は、社務所に申し込みれば参加できる。

### 献茶祭祭儀 次第

祭 儀	直 会
修 祓 儀	濃 茶 席（棠庵）
献 饌 儀	薄 茶 席（書院）
茶師 口切り式	点 心 席（醴水舎）
藪内流家元 御献茶式	
祝詞奏上儀	
玉串奉奠	
撤 饌 儀	